

(社) 日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会
第16回 炉心・燃料分科会 (P2SC) 議事録

1. 日時 平成14年4月23日(火) 11:00~12:45

2. 場所 日本原子力学会 会議室

3. 出席者 (敬称略)

三島(主査)、古田(副主査)、姉川(幹事)、安濃田、上塚、木下、久保、劔田、小村、林、藤井(11名)
(代理出席委員) 藤本(秋山)、曾根田(永田)(2名)
(欠席委員) 井上、大橋、後藤、重宗、橋本(5名)
(常時参加者) 原(1名)
(発言希望者) 師岡(1名)
(事務局) 太田(1名)

4. 配布資料

P2SC16-1 第15回 炉心・燃料分科会議事録(案)

P2SC16-2 標準委員会の活動状況

P2SC16-3 決議投票時のコメント対応について

P2SC16-4 標準制定スケジュール

5. 議事

議事に先立ち、事務局より、委員18名中代理委員を含め13名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

1) 前回議事録の確認

前回議事録について承認された(P2SC16-1)。

2) 委員会活動状況

事務局より、発電炉専門部会における本分科会作成標準の決議投票など今年1月以降の主要な委員会活動の状況が紹介された(P2SC16-2)。

3) 委員の再任、新任

事務局より、4月末をもって16名の委員(三島、古田、姉川、秋山、安濃田、井上、上塚、大橋、木下、久保、劔田、小村、永田、橋本、林、藤井)が、また9月末をもって重宗委員が任期切れとなるが、今後の分科会スケジュールを考慮すると、本日の分科会で重宗委員を含む委員再任が必要である旨、及び大橋委員を除く委員からは委員継続の意思確認を受けている旨の報告がなされた。主査より、委員継続の意思を示している16名の委員の再任について一括して決議したい旨の提案が行われ、了解された。挙手による委員選任(再任)決議が行われ、対本人分を除く全員一致で16名の委員再任を行った。

3) 決議投票時のコメント対応について

原氏より、P2SC16-3に沿って、「BWRにおける過渡的な沸騰遷移後の燃料健全性評価基準(案)」決議投票時のコメント対応について説明がなされた。以下のような審議が行われた。

- ・“まえがき”の「燃料集合体が沸騰遷移を起こす(に至る)・・・」の記載は、「燃料集合体内で沸騰遷移が起こる・・・」に修正する。
 - ・「・・・を実施した。」より「・・・が実施されている。」の書きぶりの方が学会標準として適切であり、コメントは拝承する。他にも見直し、同様な書きぶりが必要な箇所は修正する。
 - ・カラーのグラフを白黒にしたもので、凡例が分かりにくくなっているところが指摘されている以外にもある。線種を変えるなど見易くなる工夫をする。
 - ・「経験温度の持続時間」は「試験中に経験した燃料被覆管温度の積算時間」とし、図中には意味が正確に伝わるよう説明を追加する。図の横軸の表現「高温持続時間」は変えない。
 - ・解説付図3-16についてはトレースを検討する。
 - ・参考文献(19)(ハルデン試験結果関係)は、論文発表時期との関連があり、参考文献の優先順位は次の通り、①学会への論文発表、②国際会議での発表論文、③ハルデン試験の原情報。学会論文は査読が終われば投稿予定で載せられると思われる。
 - ・参考文献(20)及び(31)は最新版のものに変える。
- (本部委員コメント関連)
- ・1.の統計的処理への回答として、「統計的に扱いにくいので決定論で扱っている」は不十分であり、現状で問題ないことの説明が必要。本基準に関するコメントなので、被覆管の強度・延性は未照射材にもどるだけなので問題ない旨の回答を行う。
 - ・2.は本基準に対してというより燃料設計についてのコメントである。
 - ・現在の燃料設計関連の指針は20年近く前に決められたものであることから、そろそろ見直しも必要との認識はあるが、データの蓄積や新たな知見という点で現時点で直ちに直しを行うことは無理と考える。
 - ・原子力学会として、出来るところから検討しても良いのではないか。
 - ・「現状の評価手法の何が問題なので見直す。」のような方向で進めるべきである。

- ・標準化という課題で分科会で取り組むのは時期尚早で、やるとしても検討専門委員会のようなところで、標準に成りうるかどうかも含めて取り組む課題である。
- ・本分科会の今後のテーマとも関連する話であり、本コメントに対する専門家としての各委員の回答、見解を連休明け後に事務局まで寄せることとした。

6. 次回開催予定

第17回分科会は、状況を見て必要に応じて開催する。

以上